

職能科通信 38号

2018年1月発行

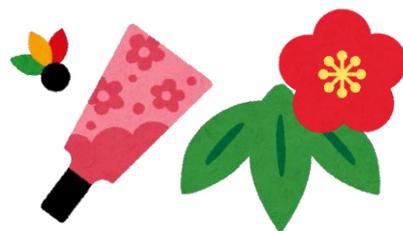
職能科通信

検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2571



謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。

昨年中は格別のご厚情を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、11月3日の開棟式、中旬に引越しを済ませ、新病院棟が12月1日から正式オープンとなりました(図1)。病院棟のコンセプトに基づき(図2)、リハビリテーション部門は2階に集約され(図3)、七沢自立支援ホームへの移動も容易となりました。職能科においては、前病院時に比べると狭くなりましたが、訓練メニューと室内レイアウトを工夫し、利用される皆様の安全・安心・快適な支援を心掛けて参ります。(図4)。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(松元 健)



図1 新病院の概観(開棟式パンフレットより)

病院棟のコンセプト

1. 医療と福祉の連携強化
2. 各診療科の連携、多職種の間わりが必要な高次脳機能障害や脊髄障害などに対する高度なリハビリテーション医療の提供
3. 重度・重複障害や就労・復職支援が必要な脳血管障害者等の社会参加に向けたリハビリテーションの提供
4. ロボットを活用したリハビリテーションの推進

図2 新病院棟のコンセプト



図3 2Fフロア案内図(開棟式パンフレットより)



図4 職能訓練室

【お知らせ】

- ①職能科の外線直通電話番号が「046-249-2571」のみになりました。
- ②新病院棟へのアクセスが1月4日以降変更となります。ホームページをご参照ください。

現場から～能力開発部門の支援事例～

職能科には「能力開発部門」と「就労支援部門」という2つの部門があります。能力開発部門では、地域生活への移行に向けた支援を主に行っており、中には高次脳機能障がいの影響が大きく変化する時期のさなかにいる患者様も少なくありません。今回は、傷病により脳に損傷を負った方にしばしば現れる通過症候群（意識障害の改善後も、精神活動の鈍化がみられる症状）の支援事例を紹介します。



図5 ポールペン解体・部品分け

事故で頭部外傷を負われ、約1か月半の急性期治療を経て、リハビリテーションを目的に当院に転院してこられたAさん。当初は行動・感情の抑制できず怒ったり、指示理解が難しく、訓練室に留まられなかったりしていました。適応的な行動ができるように、環境調整や服薬調整、チームでの対応を続けた結果、訓練開始から約4か月後にボールペンの解体・部品分け作業(図5)などの簡単な作業を落ち着いて取り組めるようになりました。

通過症候群への対応は、時間の経過や環境・服薬調整、チームで関わるなど、その症状に応じた個別性の高い支援が必要です。 (永野 正之)

平成 29 年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数

2017年4月～11月の累計 6名

就職・復職者の人数

2017年4月～11月の累計

新規就労

9名

復職

38名

高次脳機能障害セミナー -実務編- 研修会報告



図6 高次脳機能障害セミナー実務編の様子

平成 29 年 12 月 9 日(土)、厚木シティプラザサイエンスホール 250 にて「高次脳機能障害セミナー 実務編」が開催されました(図6)。

今回のセミナーでは、脳外傷等による高次脳機能障がいの支援とその課題について、医師、PT、OT、心理、職業リハ、コーディネーターの視点からお話をさせていただきました。リハビリテーション医の立場からは、慈恵会医科大学の渡邊修教授をお招きし、高次脳機能障がいの概要や症

状への対応などをわかりやすくお話させていただきました。

職能科からは、就労(復職)支援の流れをもとに、それぞれのステージでどのような支援が必要なのか、活用できる制度や所得補償・支援機関などの情報を交えながら取り組みを紹介させていただきました。今後の支援の参考になれば幸いです。 (今野 政美)